

ハートパル

2021年
9月
23号



東京オリンピック・パラリンピックでは、日本の女性アスリートの目覚ましい活躍が見られました。女性が選手としてオリンピックに参加できるようになったのは、1900年に行われた第2回近代オリンピックで、競技はテニスとゴルフの2種。それから120年後の今では多くの競技に多くの女性アスリートが競技できるようになり、今はスポーツも一つの職業として選択できる時代です。

女性アスリートの活躍が進む一方で、女性が競技を継続的に取り組むために解決すべき課題がみえてきました。例えば、家庭生活や出産・子育てとの両立、体・健康などです。

この号では、女性アスリートのセカンドキャリア（引退後のキャリア）について考えてみましょう。

セカンドキャリアに係る課題と提案

1. 家庭生活との両立とサポート体制づくり

日本の女性アスリートの平均引退年齢は26.9歳と外国と比べて早く、結婚・出産したら引退という風潮があるようで、活躍する20代のアスリートの74.5%が競技引退を考えているというアンケート結果があります。「競技生活と子育てを含む家庭生活の両立が難しい」あるいは「そのような生活を想像できない」ことが引退の理由の一つです。そのことから、選手とともに将来のライフプランについても考え、サポートするなどの体制づくりが必要です。

2. デュアルキャリアのすすめ

スポーツ科学の進歩や社会環境の変化もあり、アスリートとして活躍しながら（または一旦中断して）企業で働いたり、自分で会社を起したり、資格を取得したりなどの2つのキャリアを並行して活動することを「デュアルキャリア」といいます。そのメリットは、

- ★長期的な視点で人生を考えることができる。
- ★競技にかける限られた時間の中で集中することができ、モチベーションが高まる。
- ★業界以外の人脈や情報を得たり、選択肢が広がったり、新たな価値観や考え方を学ぶことができる。
- ★収入源を持つことで経済的な不安を解消できる。
- ★引退後の将来の不安を軽減する効果も期待できる。

セカンドキャリアを実現させるために

1. 活躍する女性ロールモデルの必要性

今回のオリンピックでは、結婚・出産後もアスリートとして活躍している選手が紹介されました。しかし今の日本では、結婚・出産後も競技を継続したり、引退後も指導者や審判員などとして活躍するロールモデルが少ないため、選手または専門家として関わり続けることのイメージが付きにくいようです。身近にいる先輩や上司などが手本となり、未来像がイメージできるロールモデルが必要です。



女子サッカーでは、セカンドキャリア促進のための冊子が作られ、多くのロールモデルを紹介しています。



2. アスリートのキャリアデザインを重視する

「セカンドキャリアについて考えたことがあるか」の調査で、「考えたことがない」という回答が多く見られたことから、アスリート自身も、取り巻く関係者も、現役のうちにデュアルキャリアの考え方を取り入れ、競技だけでなく、将来を見据えて勉強する、資格を取得する、視野や人脈を広げる、などの活動を通して、自分の人生を積極的にプランニングすることが大切です。

新型コロナウイルス感染拡大が「女性に深刻な影響」

新型コロナ感染症の拡大に男女で異なる影響があり、女性の非正規雇用労働者の減少や自殺者数の増加など女性への深刻な影響が明らかになりました。女性の深刻な影響の根底には、平時においてジェンダー平等・男女共同参画が進んでいなかったことがあり、コロナの影響により顕在化しました。

今こそ幅広い政策分野でジェンダー視点を入れた政策立案が不可欠であるとして、下記の4つの課題を明らかにしました。（「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会」報告書から）

①女性に対する暴力

- DV相談件数の増加（前年同期比1.5倍）
- 精神的暴力や経済的暴力も顕在化
- 給付金の世帯主給付の課題
- DV被害者の自立には経済的自立が重要
- 10代～20代の若い女性への支援策の強化が必要

②経済

- 女性の多い産業や非正規雇用労働者に大きな影響
- 女性の所得はもはや家計の補助ではない
- 非正規雇用労働者の女性の収入状況にも留意
- シングルマザーの失業率が上昇。支援の強化が必要
- テレワークの受け止めに男女差。後戻りせずに柔軟な働き方を加速する必要
- デジタルスキルの向上を推進すべき

③健康

- 女性の自殺者が増加（前年比935人増）
- 特に無職者(主婦等)、女子高生の自殺が増加
- 妊産婦への十分な配慮が必要
- 医学・公衆衛生学でもジェンダーに着眼した検討を
- 男性への感染予防策の啓発を積極的に

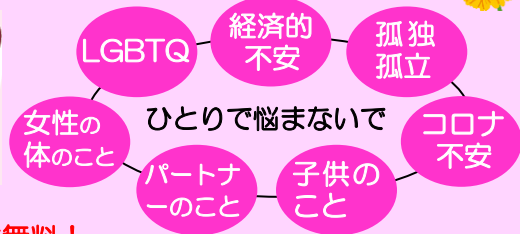
④家事・育児・介護(無償ケア)

- 休校は特に小学生の母親の就業に大きな影響
- 子供のいる有配偶女性の非労働力化が進行
- コロナ下で女性の家事・育児・介護の負担感が増加
- 男性の家事・育児参画の兆し。これをチャンスに

ポストコロナに向けて、誰一人取り残さない社会づくりが求められています!

「女性のためのつながりサポート事業」がはじまりました!

新型コロナウイルスの影響により、孤独や不安を抱える女性達がお互いの体験や思いを語り合い、支え合う場所ができました。必要に応じて相談機関や支援団体へおつながりください。お気軽にお立ち寄りください。



女性が安心して過ごせる居場所です。利用は無料!

ピアサポート プリママ
090-2195-7222
月～土 9時～17時



プリママ おしゃべりピアカフェ開催
毎週水・土 13時～16時



大村市東本町 2-3 福谷ビル2F

大村市母子寡婦福祉連合会
0957-46-3286
大村市本町 458-2 プラットおおむら3F

月・金
9時～15時

のほほん亭(個人宅)
0957-52-7409
大村市上諏訪町 611-1

月2回
(第1・3土)
10時～15時

★当センターの講座・イベントに参加し右図の駐車場をご利用の場合は、無料駐車券を発行します。

【問合せ先】

大村市男女共同参画推進センター「ハートパル」
〒856-0832
大村市本町 458 番地 2 プラットおおむら 4 階 (旧浜屋ビル)
TEL: 0957-54-8715 FAX: 0957-54-8700
Eメール: danjyo-s@city.omura.nagasaki.jp
[問合せ時間] 月～金 8時30分～17時30分(祝・年末年始休)

